

R6 清瀬四小の校内研究

1 児童の実態

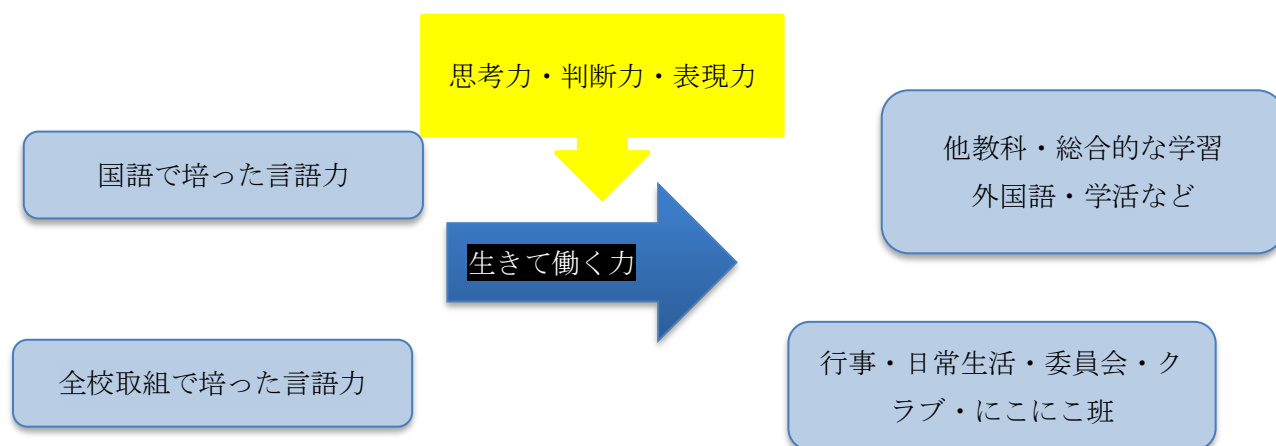
- ・自分の考えを積極的に発表する児童がいつも限られており、自分の考えに自信をもって発言することが苦手な児童が多い。
- ・前年度の3年生はアンケートより友達の考えや想いをきちんと理解し、それについて自分の考えを伝えることに難しさを感じる児童もいて、個人差が大きい。
- ・4年生は「漢字の読み書き」の定着度が低く、このことはミライシード・ドリルパークの結果（漢字の読み書きの正答率が40%から50%）からもその様子が窺える。
- ・6年生の全国学力・学習状況調査の結果から、国語の全体平均が都の平均より－9.8点、市の平均より－6.3点低く、国語の基礎・活用能力が低い。特に「漢字の読み書き」「文章を書く」という項目が、目標値よりかなり低く、苦手なことだと分かる。

2 研究主題 「言語力を活用した思考力・判断力・表現力の育成」

～国語科における「書くこと」や「話す・聞くこと」の領域を通して～

3 主題設定の理由

昨年度までは、「言語力を高め想像力を豊かにする指導方法の工夫～国語科『読みの学習』で培った言語力を他教科・領域に生きて働かせる授業づくりを通して～」を研究主題として研究してきた。



研究授業では、語彙を増やし「語彙力」を高める視点・想像力を豊かにする工夫を取り入れ、講師の川畑先生が年間講師として、授業における大切なポイントを教わってきた。

さらに日常生活では、読書活動や詩・俳句の暗唱、目標を決めて漢字学習を継続的に進めることによって語彙力を増やす取り組みを全校で行った。

現在研究を深めていく中で言語力を活用した「思考・判断・表現」の力はまだ鍛えている段階である。その力を鍛えれば「生きて働く力」となり、他教科や様々な行事へと役立つ

つ力になると考えた。

さらに児童の実態から浮き彫りとなる課題が「書くこと」「話すこと」である。

これらのことを踏まえて、言語の基礎基本の力を培う国語を主な教科として研究し、さらに充実した研究を進めていきたいという考えから、上記の研究主題を設定した。

4 仮説について

言語力の「基盤」を駆使して「思考力・判断力・表現力」を活用し、「生きて働く力」として様々な教科・領域・行事等で発揮させていく。その力を育成するために、研推では下のように仮説を考えた。

【仮説】

児童の思考を見える化することによって、思考力・判断力・表現力が高まるであろう。

★研推が考えた「児童の思考を見える化する」とは？

本来、表現力は様々な形で見るができるが、そこに至るまでの過程にある思考力・判断力は、表面化しにくく、評価している教師だけではなく、児童自身も見えづらく分かりづらいことが多い。そのためには「書くこと」を中心に、様々な手立てを工夫し、児童の思考を見えるようにすれば、自分の考えを表現する力が付き、言語力が高まるのではないだろうか。

このように、児童の見えない思考を見えるようにする（児童の思考を見える化する）ということを研究の仮説とし、主題にせまりたいと考えた。

児童の思考を見える化するために、次にあげる三つの大きなキーワードをもとに授業を展開したい。

【キーワード①】 児童の思考の流れに沿った支援の工夫

- ・板書（1時間の流れが見える）
- ・ワークシート（児童の考えが整理しやすい内容になっている）
- ・授業の振り返り（めあてに対し、どうだったか◎○△をつけ、必ず文を書いて自分を振り返る）
- ・その他（視覚教材やICTなどを有効に使う）

【キーワード②】 児童の思考を引き出すための個や全体への問いかけ

【キーワード③】 児童の思考を深めるための問い返し

この三つのキーワードを意識して、それぞれの分科会で考えられる手立てを考え、授業に組み込んだ授業を展開する。

4 研究の方法

- ①各研究授業の指導案は、各分科会で十分に検討し作成する。
- ②授業の教科についてのアンケートを実施し、児童の実態を把握したり、研究の成果や課題をみとったりする。
- ③言語活動の資料収集に努める。(実践書、他校の研究資料等)
- ④様々な実践書や研究発表資料などを活用し、研究を深める。
- ⑤成果と課題を明らかにし、3学期末までに1年間のまとめをし、研究紀要にまとめる。
- ⑥校内研究全体会の司会、記録は研究推進で行い、まとめる。
- ⑦研究協議会の司会は研究主任、記録は授業をした分科会で行う。また、研究授業の指導案印刷・授業記録はそれぞれの分科会で行う。この記録はその後の授業改善に生かすとともに、児童の変容、成果や課題に活用する。
- ⑧児童の活動の様子を動画や静止画に撮り、記録として活用できるように分科会での役割分担を明確にする。
- ⑨学年で1本研究授業を行うが、研究授業を行わない人も、指導案を分科会で検討して指導案を作り、必ず研究授業に準ずる授業（講師はいないが校内で見合う）を公開する。
その授業の成果と課題もまとめる。
- ⑩定期的に児童の変容の見取りを工夫し、数値化して、成果の根拠とする。
- ⑪協議会のもち方については、その都度提案し、授業のPDCA→CAを大切にし、よりよい授業になるようにする。またCA（特に評価を重視）した内容は、協議会で拡大印刷した指導案や発問計画案に書き込んでいき、課題や改善策を明確にしていく。
- ⑫研究授業実施後の協議会や講師助言を受けて、単元計画や本字案の改善版をつくり、紀要を綴じる。次年度以降「使える指導案」として共有したい。

【研究主題にせまるための具体的な手立て・取組】

	具体的な手立て・取組	
全校	・単元に沿った並行読書 ・言葉のたからばこ（オノマトペ、気持ちを表す言葉などを全学年分掲示） ・1分間スピーチ（自分の考えや思いを表現し、友達の表現や思いにふれる。）	
低・中・高	低 中 高	・5分間メモ　・川柳づくり ・続き話タイム「それから、それから、どうなった？」 ・お話カード並べ（説明文・物語文）　・俳句づくり ・詩、短歌づくり　・全校朝会の話をもとめる（全校朝会の話のを要約し、言語力の底上げをする）
高	・四季の俳句づくり	